公開講座番号　特－０２１

吉田章宏ゼミナール
『嘘』を心理学しよう

講　　師：吉田章宏　Ph.D.（東京大学名誉教授）
期　　間：平成２５年１０月２８日～平成２６年３月２４日
回　　数：６回
曜　　日：月曜日
時　　間：１８時００分～２０時００分
定　　員：２５名
受　講　料：１２，０００円
会　　場：淑徳大学池袋サテライト・キャンパス

【ポイント】

人間における「嘘」（うそ）を「心理学する」試みです。「嘘をつく」ということは普遍的な人間的行為です。「嘘」をついたことの無い人はいないでしょう。でも、「嘘」だけで生きて行くことはできません。人々は「正直」を貴び、「真実」に憧れ、「真理」を求めます。でも、現実のこの世は「嘘」に満ち溢れ、人々の間では「嘘」が飛び交っています。ここでは、日常生活における人間による「嘘」の現実性と可能性を少しでも明らかにして、その意味と論理と心理の解明に迫りたい、と願います。身辺に転がっている多種多様な「嘘」の事例を基に、「嘘」の不変な意味と構造を明らかにし、「嘘」に溢れた日常生活において生きて行く智慧を求めて、活きた心理学に向かって「学問する」ことをめざします。「嘘」の上手な人も「嘘」の下手な人も歓迎です。「嘘」をつくこと、「嘘」を見抜きそこに「真」を読み取ること、「嘘と秘密」、「嘘と沈黙」など、「嘘」をめぐる話題は豊かです。資料による「事実学」よりも、「嘘」の可能性を探究し、その変わらぬ本質を解明して、「嘘」をいわば俳句として詠む「本質学」をめざす試みです。「嘘」の可能性を想像し、現象学的洞察を深める中で、人間の「嘘」を笑い、人の愚かさを愛し、楽しみましょう。

【講座内容】

第1回　10月28日：「嘘」を心理学する。「嘘」をめぐる「問い」。
第2回　11月25日：「嘘」の発生と創造、その多様な可能性。
第3回　12月16日：「嘘」を解き明かす立場、その多様な可能性。
第4回　 1月27日：「嘘の実践」とその解明。実行と観察。創作と批評。
第5回　 2月24日：「嘘の教育」と「教育の嘘」。それぞれの解明。
第6回　 3月24日：「嘘の心理学」の創造と発展と深化をめざして。

【講師プロフィール】吉田章宏（よしだ　あきひろ）　1934 年東京神田生まれの江戸っ子。

都立日比谷高校卒。東京大学理科一類入学(1955)、同教育学部教育心理学科卒(1960)。米国イリノイ大学 Ph.D.（1967）。元・教授学研究の会世話人。人間科学研究国際会議(IHSRC)会員。日本教育心理学会名誉会員。米国『現象学的心理学雑誌』編集顧問。教育心理学・現象学的心理学。イリノイ(1964－67)、コーネル(1968－69)、お茶の水女子(1969－1972)、東京(1971－1995)、放送(1990－2000)、岩手(1995－1998)、川村学園女子(1998－2001)、淑徳(2001－2010)の諸大学に勤務。京都、九州、岡山、大阪、埼玉、中央、都留文科、お茶ノ水女子、日本女子、立教、大正、群馬、岩手、世田谷市民の諸大学で授業。米国デュケイン大学(1980-1981)でフルブライト上級研究者として現象学的心理学を学ぶ。著書：『学ぶと教える:授業の現象学への道』(海鳴社)、『教育の心理：多と一の交響』(放送大学教育振興会)、『ゆりかごに学ぶ：教育の方法』(一茎書房)、『子どもと出会う』(岩波書店)。共訳書『一般心理学の基礎』4 巻(明治図書)、共訳『現象学的心理学』(東京大学出版会)、共著『心に沁みる心理学』(川島書店 2010)、訳書『心理学における現象学的アプローチ：歴史・理論・方法・実践』(新曜社 2013)。

「嘘」を心理学しよう　吉田章宏

第1回　10月28日:「嘘」を心理学する。「嘘」をめぐる「問い」。
第2回　11月25日:「嘘」の発生と創造、その多様な可能性。
第3回　12月16日:「嘘」を解き明かす立場、その多様な可能性。
第4回　 1月27日:「嘘の実践」とその解明。実行と観察。創作と批評。
第5回　 2月24日:「嘘の教育」と「教育の嘘」。それぞれの解明。
第6回　 3月24日:「嘘の心理学」の創造と発展と深化をめざして。

第1回　10月28日:「嘘」を心理学する。「嘘」をめぐる「問い」。

「『嘘』を心理学しよう」への私の思い。未存の学問として探究あるいは探索する。未だ存在しない学を求めて。ゼミの意図。知の分類。シエーラーの言う「教養の知識」を、「嘘」について、求めたい。これからのそれぞれの生を幸せにするための、益となりますように。それぞれにおける将来の豊かな学びの「金平糖の核となりますように」との願い。

「嘘」とは何か。

「虚」と「口」。言語的な解明:日本語と外国語（英語、中国語、ドイツ語、・・・、）、語源、字源、類語、反対語、同義語、「同定過程」（広辞苑、類語辞典、諺辞典、字源辞典、）

焦点化と視線深化と視野狭窄、拡張化と視野拡大あるいは視野拡散。

「心理学する」、「心の理」、「学問」、現象学的心理学、＜わかる＞、「嘘を心理学的に＜わかる＞」

「嘘」に関わる人間たち、オセロに典型的人間関係を見る。

「嘘」の成立条件と成立情況、必要条件と十分条件の区別

「嘘」の存在論と認識論

「嘘」の研究主題としての特質、人間理解の中心

「嘘」をめぐる多種多様な「問い」の可能性瞥見:すべてを扱うことはできない

「嘘」と人間、人間にとっての嘘の意味、人間の不透明性、社会性、人間の意識、意図、「嘘」の価値、・・・、

「嘘」の社会性、反社会性、信頼と不信、共同社会、対立社会、友好と敵対、全体と部分、所属集団、協同と競争、相互理解、ゲーム（例えば、ポーカー、将棋）における「嘘」、

「嘘」をめぐる人間関係（実践者、能動と受動、研究者、観察（傍観、岡目）者、生きる、行う、受ける、騙す／騙される）、その構造、機能、意味、歴史、発達、

「嘘」に関連する文献抄（行き当たりばったり）

第2回　11月25日:「嘘」の発生と創造、その多種多様な可能性。

嘘の発生には多種多様な可能性がある。自然発生的な嘘から、人間の狡知を極めた嘘まで。つまり、「嘘になる」と「嘘をついてしまう」と「嘘を考え抜いてつく」・・・。

しかし、嘘の心理学としての面白さは、人間の「狡知を極めた嘘」にこそある。そこには、人間という独自の存在の姿が、多種多様に現れるからである。そこで、その素朴な発生から始めて、狡知の極まで、辿ってみよう。巧妙な嘘が可能になるためには、自他の視点による、物事の見え方の違いが分かっていなければならない。つまり、その限られた範囲における自己中心性が克服されていなければならない。いや、自己中心性の克服を基盤においている嘘が、巧妙な嘘だと言うことになるのであろう。相手にとっての見え方を、自分にとっての見え方を見ながら、同時に、操作することが出来るようになることが必要なのである。その心の動きを、想像してみよう。

嘘の多種多様性というが、では、仮に、嘘の無限集合を、近似的に有限集合と見なして捉えて、その上で、それを分節化するとすれば、どのような次元が考えられるであろうか。無限集合ならば、その次元も無限で、有限と想定することは出来ないであろう。分節化の連続性と不連続性（Fuzzy Set:曖昧集合）。カテゴリーも連続でも不連続でもありうる。それは、嘘の現実性から、自由想像変容により、考えることができよう。

第3回　12月16日:「嘘」を解き明かす立場、その多様な可能性。

「嘘」を解き明かす立場は、そのまま、人間を研究する立場に重なるように思われる。心理学を分類する枠組み、「渡辺恒夫の試み」、城戸幡太郎、戸川行男、荻野恒一、ジェンドリン、Piaget, Jankelevitch,分節化と構造化、差異と同一、「嘘を生きる」(能動と受動)と「嘘を眺める」の基本的対比。跳び込むか、眺めるか。「やるか、やられるか」。時間的差異、時代的差異、空間的差異、社会的差異、・・・。

人間的な営みをめぐる多様な視点の可能性。視点、時間、空間、言語、身体、象徴、

生きた事例の解明から出発するか、分節化と構造化と意味化の抽象的な構想から出発するか。解釈学的循環。直線と螺旋。

実証主義的に、行動主義心理学で、「嘘」をどのように研究できるか、を考えてみるのも一興かもしれない。資料データが無ければならないとすると、「嘘」と「間違い」の区別は出来るか否か。「白状」無くして「嘘」を実証できるか否か。日常常識に劣る科学で、満足できるか？行動主義心理学の限界は、どこにあるかが、見えてくる。

Gebbels の手記からの分析は、興味深い。「嘘」の実践者としての政治屋。

David Bakan: 模型実験の紹介とすすめ

第4回　　1月27日:「嘘の実践」とその解明。実行と観察。創作と批評。

実践者による解明と傍観者的研究者による解明の比較対照。「嘘」の実践の、意識の流れの相違。時間体験の相違。視点の相違。それぞれの世界の相違。「嘘をつく」と「嘘つき」の相違(ジャンケレヴィッチ)。などなど。

他の実践、たとえば、説得、説明、理解、創作と批評、緊急医療とその批判、などなどにおける、実践者と研究者の視点の相違と、「嘘」の実践者と研究者の視点の相違との、比較対照。それは、もう一歩後退した視点に見えてくるはずの相違である。改めて、「嘘」という行為の解明の特殊性を明らかにできよう。

第5回　　2月24日:「嘘の教育」と「教育の嘘」。それぞれの解明。

第6回　　3月24日:「嘘の心理学」の創造と発展と深化をめざして。